

## 中学校 道徳 部会

部会長名 大任中学校 校長 白石 毅

実践者名 香春中学校 教諭 鷺尾佳子

### 1 研究主題

豊かな心を育む道徳教育の研究

～道徳の時間における「私たちの道徳」の活用を通して～

### 2 研究主題設定の理由

#### (1) 社会の要請から

近年、家庭や地域社会の教育機能が揺らぎ、社会全体のモラルが低下しており、生徒の自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であるという問題点が指摘されている。またあふれる情報の中で、正しい情報の取捨選択が困難になってきている。

学校における道徳教育は、豊かな心を育み、人間としての生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとする教育活動であり、社会の変化に主体的に対応して生きていく人間を育成する上で、重要な役割を持つものであることから、道徳教育を推進することは生徒の人間形成において大切であると考えます。

#### (2) 生徒の実態から

本校の生徒は従順であり、素直に与えられた課題に取り組むことができる。道徳性検査の結果によると、自分の学校や学級・町や日本などの所属するものに対して大切に思ったり、自慢に思ったりする割合は高い。しかし一方で自分の良さを認識したり、自分の将来に対する夢や理想を描いたりして生活していると答えた生徒の割合が低く、自尊感情の向上が課題であると考えます。

本校の教育目標「感謝の気持ちと志をもって意欲的に学び、自分を高めていく生徒の育成」のためにも、道徳教育の充実は大切であると考えます。多くの情報にさらされ、価値観が多様化していく中で、情報の取捨選択をすることが迫られる。中学校学習指導要領道徳編には「中学校の段階は、他者との連携を深めると同時に主体的な自我の確立を求め、自己の生き方について関心が高まる時期であり、人間性についての理解を深め、主体的によりよい人生を築いていくための基礎を学ぶ学習が重要となる」とある。自分の向上と共に、周囲と共に成長して高め合う子どもの育成が大切である。

#### (3) 「心のノート」活用の実態から

平成26年、「心のノート」を全面改訂した「私たちの道徳」が文部科学省より出され、ホームページに掲載されている。また、学習指導要領（道徳編）においても「心のノート」の適切な活用について示されている。これらのことから「私たちの道徳」のより一層の活用が望まれていることがうかがえる。しかし、教員自身がその良さを認識できておらず、「心のノート」が十分に活用されていたとは言い難い現状である。そこで、生徒が道徳的価値について自ら考え、実際に行動できるようになるための心の持ち方を養うため、より充実した道徳の時間にするために、道徳の時間と結びつけた「私たちの道徳」効果的な活用を探り、その効果を考えていく中で、道徳教育の充実を図ることができるような事例をあげていきたいと考え、本主題を設定した。

### 3 主題の意味

#### (1) 豊かな心を育むとは

「豊かな心を育む」とは、「自分を大切にし、他と共に成長しながら自己実現を目指す心を育てる」ことであると考えます。

わたしたちは、自分の気持ちを偽れば心に痛みを感じ、自分の願う生き方をすれば喜びを感じる。また、まわりの人を思いやって心が通い合ったとき、自然や芸術と出会って感動したとき、誰かの役に立つことができたときなどには、自らの心が温かくなり、満たされる。人間は「自分自身」、まわりの人や自然などの「他」を尊重し、共生していこうという思いをもっているのである。また、他が成長することで、自分の成長を促し、お互いに高め合っていくことができる。

この、自他を尊重し、高めてあっていきたいという思いがしっかりと心の中にあるとき、その人の心は豊かであると言える。そして、その豊かな心は単に心の中の思いにとどまっているのではなく、積極的に行動として表されたり、無意識に行動となって表れたりしてくるであろう。自分のよさを発揮し、自己実現を目指して生きる中で、その人のもつ豊かな心が行動となって表れてくるのであり、より豊かな心をはぐくむべく生きていくことがその人の自己実現へとつながっていくと考える。

#### (2) 「私たちの道徳」の活用を通してとは

「私たちの道徳」の活用を通してとは、道徳の時間に活かす教材は、生徒が道徳的価値の自覚を深めていくための手掛かりとして、大きな意味を持っている。そのため、生徒が身に付ける道徳の内容をわかりやすく表し、道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるものとして作成された「私たちの道徳」を道徳の授業での活用を考える。

### 4 研究の目標

道徳の時間の授業において、「私たちの道徳」を活用することを通して、自分を大切に、他と共に成長しながら自己実現を目指す生徒を育成する手だてを明らかにする。

### 5 研究仮説

次の手立てを工夫しながら、「私たちの道徳」の活用を計画的に進めていけば、自分を大切に、他と共に成長しながら自己実現を目指す心が育成される手がかりになるであろう。

- (1) 道徳教育全体計画や、年間指導計画における「私たちの道徳」の位置付け
- (2) 道徳の時間における「私たちの道徳」の効果的な活用方法

### 6 研究の方法

- (1) 「私たちの道徳」の活用のしかたの探求
  - 道徳の時間におけるの効果的な活用方法を探る。
    - ①導入の興味付け

(主題への関心の喚起 ex イラスト 写真 問題提起文)

②中心資料

(理解を深める 経験の想起 ex 記述の振り返り 詩 作文 絵 写真)

③中心資料の補助資料

(話し合いの参考資料 新たな価値、気付きにくい考えに気付く手掛かり)

④体験の交流

(自覚を深化 ex 直接記入, 内容の交流)

⑤終末の考えを整理する手助け

(価値や考えの深化 学習内容の明確化する ex メッセージ 詩 名言)

⑥事前や事後の関連づけ

(学習・日常生活につながる問いかけ・投げかけ 発展的な投げかけ)

(2) 活用の効果の検証

○検証授業において、検証する視点を明らかにし、その変容を分析しながら活用の効果を探る。

視点①導入・展開・終末のそれぞれにおいて活用した場合の効果

②生徒の記述の変容

③話し合い活動や役割演技などでの発言

④年度当初と年度末における「道徳性検査」の数値の変容

○文献研究を行う。

・道徳の時間における「私たちの道徳」の効果的な使い方について探る。

・道徳教育全体計画や年間指導計画への「私たちの道徳」の効果的位置付けについて探る。

○生徒の実態調査を行う

・学年全体の実態を把握するための調査

・授業実践を通して、生徒の意識の変化を把握するための調査

・学年全体の実践後の変容を把握するための調査

○本校における道徳教育全体計画や、年間指導計画を見直しへの「私たちの道徳」を位置付ける。

○実践研究を行う。

・道徳の時間で「私たちの道徳」を使った実践を行う。

6 研究の計画

V-2 道徳の時間の年間指導計画（中学校3年）									
学年の重点目標									
月	主題名	配時	重点内容	資料名	私たちの道徳	特別活動	総合的な学習の時間	各教科	
	内容項目			出典		学校行事、学級活動等			
4	自主・自律・責任 1-(3)	1		教科書無償の贈り		始業式 対面式			
	望ましい生活習慣 1-(1)	1		受験生あつこの日記	p.10~15	身体測定		保健体育	
	自然愛 畏敬の念 3-(2)	1		瑠璃色の星				理科	
5	法や決まりを守る 4-(1)	1		誰が本当の作者？				技術	
	真の友情 2-(3)	1		正岡子規 私たちの道徳		体育会			
	自然愛 畏敬の念 3-(2)	1		五万回斬られた男 福本清三					
6	きまりを守る 4-(1)	1		二通の手紙 私たちの道徳 自分をばす 明日をむらく	P140				
	生きる喜び 3-(3)	1		あまはりにあずかすていけい ほんにたにまがむすから				音楽	
	生命の尊重 3-(1)	1		いのちをいただく		教育相談		家庭科 理科	
7	目標に向かう意志 1-(2)	1		奨学金制度					
	理想の実現 真理愛 1-(4)	1		幸福は、無我夢中の中にある				美術	
	人間の気高さ 弱さの克服 3-(3)	1		杉原千畝 希望のビザ 私たちの道徳	P123	クラスマッチ 三者面談		社会	
9	生命の尊重 3-(1)	1		いのちを教える 高校教師 真鍋公士	P102	保育体験			
	郷土愛 4-(8)	1		ふるさとに緑をもう一度				社会 理科 技術	
	礼儀 2-(1)	1		島耕作 ある朝の出来事					
10	感謝の心 2-(6)	1		黄色いお弁当箱				家庭科	
	伝統文化・日本人の自覚 4-(9)	1		命に響く「雅楽」 東儀秀樹				音楽	
	向上心 1-(5)	1		あなたらしさがあなたの良きになる	P40	合唱コンクール			
11	思いやりの心 2-(2)	1		流れ星	P54 59			国語	
	集団生活の向上 4-(4)	1		みんなで跳んだ	P166 167			保健体育	
	異性理解 2-(4)	1		五月の風				保健体育	
12	自主・自律・責任 1-(3)	1		ドラッグは二つの顔をもつ		教育相談		保健体育	
	公正、公平な心 4-(3)	1		奨学金制度 違反質問					
	勤労と奉仕の精神 4-(5)	1		ふきのとう		生徒会選挙			
1	深い人間愛 4-(10)	1		世界と私たちの食生活 世界がもし100にんのむらだったら	P.214 215			英語	
	生命の尊重 3-(1)	1		和田真由美さんの手記		三者面談		保健体育	
	公德心/社会連帯 4-(2)	1		アルミ缶回収		生徒会引き継ぎ式			
2	思いやり 2-(2)	1		もつとも思ひながさこは、機織りこでも思ひしいことでもなく	P54 59			社会	
	理想の実現 真理愛 1-(2)	1		負けない！ クルム伊達公子				保健体育	
	勤労と奉仕の精神 4-(5)	1		父の言葉の意味を知って				社会 技術	
3	愛校心 4-(7)	1		旅立ちの日に 私たちの道徳	P198 199				
	公正、公平な社会 4-(3)	1		「自分以下」を求める心					
	伝統文化・日本人の自覚 4-(9)	1		落語が教えてくれること				国語 社会	
4	家族愛 4-(6)	1		ごちそう				家庭科	
	謙虚な心 広い心 2-(5)	1		まるごと好きです				国語	

  

内容 時数 項目	1の視点					2の視点					3の視点			4の視点											
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	1	2	2	1	1	1	2	1	1	1	1	3	2	2	2	1	2	1	2	1	1	1	1	2	1

## 7 指導の実際

### (1) 導入資料としての活用

主題名 国際理解 内容項目 4 - (10) 資料名 「世界がもし 100 にんのむらだったら」 ねらい 様々な文化を認め、世界のために尽くせるような、国際的な視野を持つとする態度を育てる。	
導入	1. 私たちの道徳 p208 の「一人一人が輝く集団づくり」を黙読する。
展開	2. 太陽の色を塗り、世界での視点を知る 3. 資料を読み、行動の是非について考え、話し合う。 ○海外から見た日本は「どんな国」として映ったでしょう。 ◎日本と外国の文化の違いを理解し受け入れていくために私たちに必要なのはどのような気持ちでしょう。
終末	4. 感想を書く。

### (2) 中心資料としての活用

主題名 きまりの遵守 内容項目 4 - (1) 資料名 「二通の手紙」 ねらい 二通の手紙を受け取り、元さんが「考えさせられたこと」を考えることを通して、法や規則の意義に気付き、守ろうとする実践意欲を育てる。	
導入	1. 道徳ファイルを用いて、周囲にはどんな規則があるのか考える。
展開	2. 資料を読み、行動の是非について考え、話し合う。 ○もし自分が元さんだったら、幼い2人を入園させるか。 3. 元さんの心情を考える。 ○どうして元さんは動物園をやめたのでしょうか。 ◎「新たな出発ができそうです」とどんな気持ちで言ったのでしょうか。
終末	4. 法やきまりの意義を考え、感想を書く。

### (3) 中心資料の補助資料としての活用

主題名 自己の向上 内容項目 1 - (5) 資料名 「あなたらしさがあなたの良さになる」 ねらい 「友だち発見メモ」を作って友だちの長所を発見し、自分の良さの発見に努める。	
導入	1. 自分の短所を挙げてみよう。
展開	2. 資料を読み、自分の個性について考える。 ○自分自身が嫌だと思っている所も輝く個性になるのだろうか。 3. 資料を読む。 4. 友達発見メモを作成する。 5. 友人からメモをもらい自分の良いところを集める。 6. 自分の中にある「良い所」を考える。
終末	7. 合唱コンクールのビデオを見る。

#### (4) 終末の考えを整理する手助け

主題名  集団生活の向上  内容項目 4－(4)	
資料名  『みんなで跳んだ』	
ねらい  集団生活の向上のために、他と協力し合いながら自己の役割と責任を果たそうとする心情を養う。	
導入	1. 前時の学活のふりかえりをし、「結果」という言葉の意識付けをおこなう。
展開	2. 映像を見て「役割」について考え、話し合う。  ○みんなどんな気持ちで泣いたのでしょうか。 ○話し合い活動で出された「役割」と学級通信の内容を比べながら読みましよう。 ◎「最高のびりっけつ」になくってはならないものは何だったのでしょうか。
終末	3. 私たちの道徳 p167 の「一人一人が輝く集団づくり」を黙読する。

### 9 成果と今後の課題

#### (1) 成果

道徳の授業で「私たちの道徳」を活用することで、生徒は問題意識を持つ、考えを明確化する、知らなかった考え方にふれる、よりより生き方を考えるなど、より深く自分と向き合い考えることができ、道徳の時間が活性化される。アンケートでは 86.4%の生徒が「道徳の授業で『私たちの道徳』を使うことが効果的である」と解答するなど活用の有効性は生徒側からも検証され、「私たちの道徳」が道徳的に深い自覚を促すと考えられる。

#### (2) 課題

道徳の時間の指導方法を工夫することにより、生徒の道徳性を育てるうえで成果は得られたが、今後さらに生徒たちに豊かな心を育むために、今後の課題として次の事柄が考えられる。

##### ①継続的な授業研究

道徳の時間を行うことで、直ちに生徒が変容することはなく、授業を毎週積み重ねることで、道徳心が養われていく。

今年度の研究で道徳の授業を行う上で、資料の選定、発問構成、そして話し合い活動を重視し、指導案を検討することで、生徒に豊かな心を育むことができることが分かった。生徒一人一人に自分自身を見つめさせ、よりよく生きていこうとする心情や実践意欲、そして態度を育てるために、今後も教師が継続的な授業研究を実践し、道徳の授業において指導力をいかに向上させるかが課題である。

##### ②より効果的な活用方法

生徒が関心をもつ資料の一つに「生徒自身の経験として身近に感じられる資料」がある。学校生活で経験することを道徳の時間に道徳的価値として生徒に自覚させ、補充・深化・統合するためには、意図的・計画的に道徳の時間を位置

付ける必要がある。「私たちの道徳」は、どの学年でも活用ができるようになっている。しかし、より効果的な扱いをしようとする場合には、どの時期にどの場面で、どの内容を扱うことが適切なのか検証する必要があると考える。より効果的に生徒の豊かな心を育てるために、年間行事計画をはじめ各教科等の年間指導計画をもとに道徳の時間の「私たちの道徳」の活用を意識した年間指導計画を立てることが課題である。

また、『私たちの道徳』を道徳の時間に有効・適切に活用するためには、学習指導要領の第3章道徳の「第3指導計画の作成と内容の取扱い」の各項に示す配慮事項について、校内での共通理解を図る取り組みが必要となる。道徳教育の一層の充実を図るには教師一人ひとりが道徳の時間の特質を理解し、道徳的価値の自覚を深め、発達や個に応じた指導の工夫、道徳教育推進教師を中心にした指導体制の確立、生徒とともに考え、悩みや感動を共有し、共に学び合う姿勢をもつことなどが必要となる。

### ③他領域との関連や家庭・地域社会との連携

学校で道徳について道徳的価値を高めても、子どもたちの周囲の環境が道徳的でなければ、効果は半減してしまう。家庭や地域との連携が必要である。戦前の修身で扱われた物語のように国民として共有していたものの多くが失われた今、改めて世代を超える共通の道徳教育の材料が必要不可欠である。「私たちの道徳」は、文部科学省のホームページからダウンロードして、誰でも簡単にその内容に触れることができる。そのことにより家庭や地域でも「私たちの道徳」に触れる機会をもつことができる。

### 【参考文献】

- 『心のノート 中学校』 文部科学省 (2002)
- 『「心のノート」を生かした道徳教育の展開－「心のノート」活用事例集－』  
文部科学省 廣済堂あかつき株式会社 (2003)
- 『中学校学習指導要領解説－道徳編－』 文部省(1999)
- 『ジレンマ学習による道徳授業づくり』 徳永悦郎 明治図書 (1995)
- 『続・道徳教育はこうすればおもしろい－コールバーグ理論の発展とモラルジレンマ授業－』 荒木紀幸／吉岡昌紀他北大路書房 (1997)